



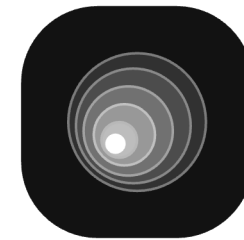
NEWS

mindpalace × Kaia

日本市場での協業を開始

既存事業の認知向上とエコシステム拡大を、リサーチ・周知活動・連携可能性を起点に一気通貫で支援

Partnership



MIND PALACE
KNOWING IS OWNING

目次

01

概要

協業について

02

Kaiaとは

アジア向けLayer1・ステーブルコイン基盤

03

協業の支援範囲

周知 / 連携 / 市場理解の深化

04

mindpalaceが選ばれた理由

一気通貫の実行力とネットワーク

05

市場の足元動向

JPYC × LINE NEXT × Kaia

06

協業の意義

象徴的事例としての位置付け

07

中長期視点

無形資産と信用事業への接続

08

今後について

次のマイルストーン

協業について

ANNOUNCEMENT

mindpalaceは、Kaiaと日本市場における協業を開始しました。

WHO

協業パートナー

mindpalace × Kaia

Kaia: アジア向けEVM互換Layer1

WHAT

支援内容

**日本市場における事業拡大および
エコシステム高度化／認知拡大・
パートナーシップ連携**

周知・連携・市場理解の深化

HOW

アプローチ

**リサーチ起点の
一気通貫支援**

探索 → 連携 → 実装まで分断しない

単発支援ではなく、理解促進から事業連携の具体化まで

mindpalaceは、アドバイザーや単発の広報支援ではなく、Kaiaの既存事業・構想を日本市場に適切に接続し、前に進めるための包括的な実行支援を提供します。



情報を届けるだけでなく、「適切な相手と、適切な文脈で、適切な順序でつなぐ」

新領域を前進させる3つの強み

01



一貫通貫の実行力

市場調査・周知・マーケ・実装検討・初期
拡大を分断せず、同じチームで推進。

フェーズ間の情報ロスゼロ

02



少数精鋭の機動力

大組織の分業の遅さを避け、
トレンドの兆しを早期に捉えて先読み対応。

機会損失の最小化

03



広範なリレーション網

イベント登壇・ブランディング・スポンサ
ーシップで構築した日本企業との接点。

適切な相手につなぐ力

アジア圏のステーブルコイン決済・オンチェーン金融を支えるLayer1



EVM Compatible Layer1

アジア全域のステーブルコイン決済とオンチェーン金融のために構築されたLayer1ブロックチェーン基盤。

Project Unifiを通じてLINE NEXTのWeb3ウォレットUnifiと連携、日本市場への導線が具体化。

Kaiaの特徴



ステーブルコイン決済基盤

アジア圏の決済ユースケースを前提にオンチェーン金融機能を提供



LINEエコシステム接続

LINE NEXTのWeb3ウォレット「Unifi」と接続、圧倒的なユーザー接点を持つ



EVM互換性

既存Ethereumの開発資産を活用しながら、日本市場での展開が可能

ステーブルコイン領域は、導入発表から実装フェーズへ

LINE NEXTのWeb3ウォレット「Unifi」でのJPYC採用公表、およびKaiaネットワーク上でのJPYC発行に向けた検討開始が案内されるなど、ステーブルコイン領域は具体的な実装段階に進みつつあります。

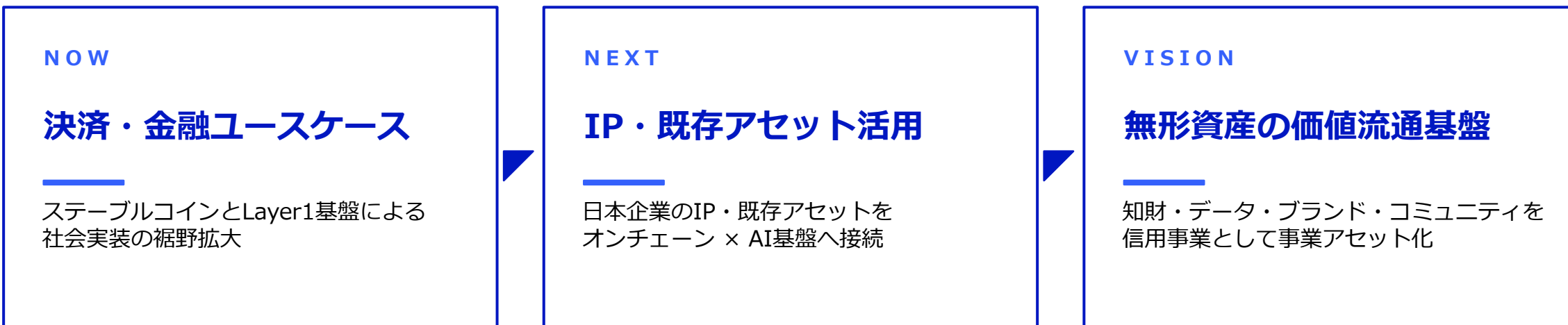


mindpalaceの役割

Kaiaが進める日本市場での取り組みに連携し、理解促進と事業機会の具体化をともに推進

信用事業・無形資産ビジョンとの接続

mindpalaceは、AI時代における無形資産(知財・データ・ブランド・コミュニティ)の価値向上を捉え、決済・金融ユースケースから日本企業のIP・アセット活用へと視野を広げています。



POSITIONING

Kaiaとの協業は、mindpalaceの中長期信用事業と無形資産ビジョンを前進させる「重要な第一歩」

日本のWeb3社会実装の裾野を広げる第一歩

現状の課題認識

Web3が日常に取り込まれていない

Web3は依然として一般社会に十分に理解されず、日常や既存産業の中に自然な形で取り込まれていない。

話題性や導入発表で止まる

ステーブルコインなどのインフラ領域も、継続性のあるソリッドな社会実装への移行が求められている。

Kaia × mindpalaceの解

Web3を意識させない設計

LINEなどのメッセージ基盤の接点を活かし、ユーザーに過度にWeb3を意識させない形で価値を届ける。

実装フェーズへの移行支援

規制対応・実装方法・利用導線・AI時代の活用可能性まで、現実的な社会実装を支援。

協業を通じた次のマイルストーン

mindpalaceが機能する場面

新しいトレンドや新領域に参入したい企業

既存事業を時代に合わせて再構成したい企業

より大きな市場へ接続したい企業

調査・施策・開発を分断せずに進めたい企業

今後の展開

01

協業の継続的な進捗

Kaiaのエコシステム拡大を伴走

02

イベント施策の検討

登壇・共催・企画などの活用を視野

03

技術面の支援検討

進捗に応じて実装・開発の支援可能性も

社会実装があってこそ、本当のイノベーション。



MIND PALACE
KNOWING IS OWNING

沼間 悠作
mind palace株式会社
Email : info@mindpalace.jp